



原発事故後の福島のサウンドスケープの変化から、私たちは何を聴き取ることができるだろうか？

永幡 幸司
(福島大学)

まずは3つの音を聞いてください



小鳥の森@2011/05/01



新浜公園@2011/05/01



信夫山@2011/05/01

- どんな音が聞こえてきましたか？
- どんな音が聞こえてきませんでしたか？
- ここから何を聞き取りますか？

あと3つ，音を聞いてください



小鳥の森@2015/05/02



新浜公園@2015/05/02



信夫山@2015/05/02

- どんな音が聞こえてきましたか？
- どんな音が聞こえてきませんでしたか？
- 前の3つから，どんな変化がありましたか？
- これらから何を聞き取りますか？

福島サウンドスケーププロジェクト



- 原発事故後の福島のパ音環境の変化を記録し、発信することを目的としたプロジェクト
 - ◆ 2011年5月1日：録音開始
 - ◆ 2011年5月8日：ホームページの公開開始

■「サウンドスケープ」とは

- 私たちが日々の生活の中で聞く、音の世界のこと
- 学術的な定義
個人あるいはある社会にどのように知覚され、理解されているのかに強調点の置かれた音の環境（音環境）。それゆえ、サウンドスケープは人と音の環境との間の関係によって決まる。
- サウンドスケープ研究は、科学・社会科学・芸術の学融的分野として構想される

■ サウンスケープ研究が目指すところ

- 音環境の質を社会的にも, 心理(学)的にも, 美的にも, よりよいものにする
- 音環境を調和のとれた, 人間の健康と福祉を決して破壊することのないようなものへと改善する

■ 「健康」とは何か

- 皆さんは、今、健康ですか？
 - ◆ 「健康」だと思っ方理由は？？？
 - ◆ 「健康ではない」と思っ方理由は？？？

cf. WHOによる健康の定義

完全な肉体的、精神的及び社会的福祉 (well-being)の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない

■ サウンドスケープ研究者としての関心事

- 「よい」音環境とはどのようなものか
 - ◆ 人がよく暮らせる音環境とはどのようなものだろうか
- そのような音環境はどのようにしたら創り上げることができるのか
 - ◆ 市民参加・当事者参加



福島暮らしは「よい」暮らしと言えるものなのかを皆で考えたい

小鳥の森



2011年5月1日



2012年5月26日



2012年8月5日



2013年8月3日



2015年5月2日

- 福島市が設置したバードサンクチュアリ
- 「里山の環境を保全する」という方針で運営
- 「残したい日本の音風景100選」に選ばれた

＜個人的には＞

- ◆ 子供向け環境教室などで利用
- ◆ 気分転換のための散歩に利用

小鳥の森



2011年5月1日



2012年5月26日



2012年8月5日



2013年8月3日



2015年5月2日

- 小鳥, 蛙, 蝉などの生き物たちは原発事故前と変わらず自然を謳歌している
- 沈黙を続けているのは人間

Cf. Silent Spring (by R. Carson)

- ここでは, 人々の沈黙は今, なお, 続いている

■ 皆さんへの問いかけ その1

放射能を恐れ「沈黙」を続けるのは、人のほう
だったという、『沈黙の春』とは逆の状況が、
ところによって今なお続く福島での暮らしは、
よい生活（あるいは健康な生活）と言えるような
ものであろうか？

新浜公園



2011年5月1日



2012年3月11日



2015年3月11日

- 市役所の近所の公園
- 市内で最初に見つけたホットスポットの1つ
- 早期に除染が行われ, うまくいった公園

<個人的には>

- ◆ 環境教室の会場としてよく利用
- ◆ 子供が気に入っていた公園の1つ

信夫山



2011年5月1日



2013年4月15日



2015年3月11日

- 福島市の「環境」のシンボリック的存在
- 市内有数の花見の名所
- 市内で最初に見つかったホットスポットの1つ

<個人的には>

- ◆ 環境教室の会場として毎年利用
- ◆ 花見の候補地の1つ

■ 新浜公園と信夫山の比較



2012年3月11日



2012年3月11日



2013年4月15日

- 除染に十分効果があったと捉えられた公園には、早い時期から子供たちの声に戻ってきた
 - 除染の効果十分とは捉えられていない公園でも、特別な日には、人が集まってくる
- ➔ 過剰な放射線との付き合い方を身につけた

■ 皆さんへの問いかけ その2

過剰な放射線との付き合い方を選び取り，身につけていくという状態は，健康な生活と言えるだろうか？

あなたはこのような放射線との付き合い方が身につくような生活を送りたいだろうか？

除染



2011年6月17日@南向台



2013年1月12日@渡利



2015年1月19日@福島大

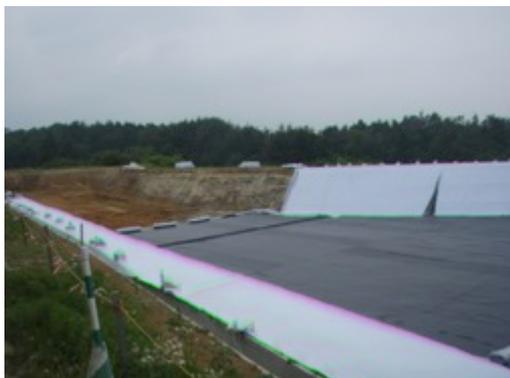
- 公的な除染は、早いところで2011年初夏から
- 4年経った今も、まだ作業は進行中
- 主な作業内容
 - ◆ 汚染土の除去
 - ◆ 落ち葉等の除去
 - ◆ 草刈り
 - ◆ 高圧洗浄
 - ◆ 樋の清掃

■ 皆さんへの問いかけ その3

健康を守るために行われる除染の音が、日常生活の中で普通に聞こえてくるような生活は、健康な生活と言えるのだろうか？

あなたは、日常的にこのような音が聞かれる環境で生活したいだろうか？

仮置場／一時保管場



2014年6月4日@松川



2015年4月11日@信夫山



2015年1月29日@福島大

- 除染で出た放射性汚染物質を中間貯蔵施設に運び込むまでの間、保管するための場所
- 人への影響が少ない場所が選ばれる結果、小鳥などの生物にとっての楽園に設置されることが多い

■ 皆さんへの問いかけ その4

原発事故の生物への影響は、人の生活環境を守るという名目で、生物たちの棲息環境が人為的に破壊されるという形で、既に、明確に出ている。このような環境で生活することは健康な生活と言えるだろうか？

■ むすびに向けて

- 原発事故後の福島では、狭い意味での人々の「健康」は保たれているかもしれない。
- では、身体的、精神的、社会的に「よい」状態で生活していると言えるであろうか？
あるいは
- 皆さんはこのような状況で、生活したいと願うだろうか？

■ 皆さんへの最後の問いかけ

福島に本来の意味での健康を取り戻すには、
どのようにしたらよいだらうか？

ご清聴ありがとうございました